

週刊 タバコの正体

新しい年、2016年(平成28年)が始まりました。年末年始を含んだ冬休み中に、過ぎ去った年の反省と新しい年に向けた目標などを考えてみましたか。皆さんにとっては、これから始まる3学期は一年を締めくくる時期なので、進級や卒業に向けてしっかり学業に取り組んで下さい。

さて、大みそかやお正月は家族や友達と出かける機会が多かったと思います。大勢の人が集まる場所はたいてい禁煙となっているのですが、タバコのニオイがする事はなかったでしょうか。案外、建物内よりも屋外でタバコのニオイを感じることは多くありませんか。閉め切られた室内は禁煙があたり前になってきている反面、解放された屋外は自由に吸っていい場所のように思われているからでしょうね。



しかし、屋外でのタバコの煙は風に乗って予想以上に広がります。例えば、左図にあるように上の階のベランダでタバコを吸うと、隣や下の階にニオイが届きます。そんな機会が頻繁になると洗濯物にニオイがついてしまうかもしれません。

他には、下図のように換気扇から漏れ出したタバコのニオイが風に乗って広がってしまうようなケースもあります。

こういう場面を紹介すると、喫煙者はいったいどこでタバコを吸えばいいのか、と感じてしまう事でしょう。でも、タバコを必要としない人が大多数となった現在では、こんな事象も意識しなければいけないと思います。



有害な煙と不快なニオイを他人に巻き散らかして良いはずはありません。そして、それを自覚しないままタバコを吸い始めてしまっってはいけません。

もっとも、そんな自覚があればタバコを吸い始めるわけではありませんよね。

産業デザイン科 奥田 恭久